勅令第四百九十四號　昭和十三年七月九日

海軍給與令中改正ノ件

第六十五條第一項第一號ヲ左ノ如ク改メ第二號中「兵」ヲ削ル

一　兵現役中死亡シ又ハ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ治療中現役ヲ離レ引續キ官費治療中死亡シタルトキハ死亡手當

第九十二條第一號及第二號中「航空豫備學生、」ノ下ニ「豫備生徒、」ヲ加フ

第十二表ヲ左ノ如ク改ム

第十二表　離現役手當表

手當區分＼官職名	下士官	一等兵	二等兵	三等兵	四等兵
一死亡手當	[illegible]圓	二〇〇圓〇〇	一八〇圓〇〇	一六五圓〇〇	一五〇圓〇〇

區分		金額
傷病手當	恩給法施行令第二十四條特別項症乃至第四項症程度ノ者	五〇〇〇
	同條第五項症乃至第七項症程度ノ者	三五〇〇
	同令第二十四條ノ二第一款症又ハ第二款症程度ノ者	二二五〇
	同條第三款症又ハ第四款症程度ノ者	一五〇〇
	同令第三十一條第一目症又ハ第二目症程度ノ者	一〇〇〇
	同條第三目症又ハ第四目症程度ノ者	七〇〇
一時手當		二七五〇
		二五〇〇
		二二五〇
		二〇〇〇
		一七五〇

備考　一時手當ノ支給額ハ本表ノ金額ニ志願ニ依ル現役ノ服役年數ヲ乗ジタル額トス

附　則

本令ハ昭和十三年四月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

司法省所管

昭和十二年度補充費途ニ比シ異動アリタル科目

款	項	目	豫算額	備考
經常部 2 法務費	3 裁判及登記諸費	ノ裁判用紙	九三、四六二 円	内容擴張

理由

裁判所及検事局ニ於テ使用スル各種用紙中直接裁判及検察事務ニ関スルモノノ費用ハ従来事務費ヨリ支辨シ居リタルモ本年度ヨリ本項中ニ裁判用紙ノ目ヲ設置シタルニ由ル

農林省所管

本年度補充費途ヨリ削除スヘキ科目

款	項	目
産業奨励費	臨時硫安配給施設費	硫安売却損失補填金

理由

本年度豫算ニ計上無キニ至リタルニ由ル

商工省所管

(一)新ニ補充費途ノ指定要求ニ係ル科目

款	項	目	豫算額	備考
臨時部 7工業奨励費	2事業費	4機械工養成所受託製作費	円 五〇、〇〇〇	根拠法令 別紙第一號参照（第二〆丁）

理由

受託製作件数ノ増加ニ依リ豫算ニ不足ヲ生スルノ虞アルニ由ル

(二)昭和十二年度補充費途ニ比シ異動アリタル科目

款	項	目	豫算額	備考
經常部 4特許局	2事務費	7審判及審査諸費	二五、六九四	根拠法令 別紙第二號参照（第二九丁）

理由

昭和十三年勅令第五十二號特許收用令第九條ニ規定スル特

許補償審査會ノ經費ニ付テモ本日ヨリ支出スルコトトシタ

ルニ由ル

文

（商第一號）

機械工養成所官制（抄）昭和十三年三月三十一日勅令第百六十三號

第一條　機械工養成所ハ商工大臣ノ管理ニ屬シ機械工ノ養成ヲ掌ル

第八條　機械工養成所ノ名稱及位置ハ商工大臣之ヲ定ム

附　則

本令ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

機械工養成所ニ於ケル受託製作ノ手續ニ關スル件

通牒案

年　月　日

工務局長

各機械工養成所長宛

件名

機械工養成所ニ於テ對價ヲ受クベキ機械器具ノ製作ヲ爲サントスル場合ニ於テハ必ズ受託製作ノ形式ニ依リ且其ノ契約ノ締結ニ付テハ左記ニ依ル様致度此段及通牒候也

記

一、機械工養成所ニ機械器具ノ製作ヲ依頼セントスル者ニ對シテハ別記様式ニ依リ機械工養成所長ニ出願セシムルコト

二、前記ノ出願ヲ許可セントスル場合ニ於テハ機械工養成所長ハ左ニ掲グル事項ヲ定メ之ヲ出願人ニ通知スルコト

(一) 品名及數量

(二)製作費及納付期限
(三)引渡豫定期日
右通知ニハ出願人ガ之ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ製作ノ依頼ヲ為スベキ旨ヲ申出ザルトキハ出願ハ其ノ効力ヲ失フベキコトヲ附記スルコト

三、出願人ヲシテ左ノ事項ヲ充分承諾セシメ之ヲ承諾シタル旨契約書ニ記載セシムルコト

(一)出願人已ムヲ得ザル事由ニ依リ其ノ製作ヲ依頼シタル製品ノ引渡ヲ受クル前ニ製作依頼ノ取消ヲ申出ヅルトキハ機械工養成所長ハ出願人納付濟ノ金額ト製作依頼取消申出ノ時迄ニ製作ノ為ニ要シタル費用實額ト相殺シ尚剰餘アルトキハ之ヲ出願人ニ返還スルコト但シ此ノ場合ニ於テハ製作中ノ材料又ハ製品ハ之ヲ出願人ニ引渡スコト

前項ノ製作ノ為ニ要シタル費用實額ハ機械工養成所長之ヲ算定スルコト

(二) 出願人製品又ハ材料ノ引渡ヲ受ケタル後ハ製作費ノ返還若ハ減額、代物ノ交付又ハ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ザルコト

(商第二號)

特許收用令(抄) 昭和十三年勅令第五十二號

第一條　主務大臣特許法第十五條第一項又ハ第四十條第一項ニ規定スル處分ヲ必要トスルトキハ商工大臣ニ之ヲ請求スヘシ

第八條　第一條ノ請求ヲ為シタル場合ニ於テ軍事上又ハ公益上急迫ノ必要アルトキハ主務官廳ハ第四條ノ決定前ト雖モ直ニ特許發明ヲ實施スルコトヲ得

主務官廳前項ノ規定ニ依リ特許發明ヲ實施シタルトキハ主務大臣ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ商工大臣ニ通知スヘシ

(第三項略)

第九條　商工大臣第一條ノ處分ヲ為スコトヲ決定シタルトキハ遲滯ナク特許補償審査會ノ決定ヲ求ムヘシ前條第二項ノ通知アリタルトキ亦同シ

第十二條　特許補償審査會決定ヲ爲シタルトキハ其ノ決定書ノ謄本ヲ添ヘ商工大臣ニ報告スヘシ

商工大臣前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ決定書ノ謄本ヲ主務大臣竝ニ出願者又ハ特許權者及實施權者ニ送達スヘシ

前項ノ送達ニ關スル規定ハ商工大臣之ヲ定ム

第十三條　第一條乃至前條ノ規定ハ實用新案法第二十六條ノ規定ニ依リ準用スル特許法第十五條及第四十條ノ規定ニ依ル處分及補償金ノ支給ニ關シ之ヲ準用ス

第十四條　特許補償審査會ハ商工大臣ノ監督ニ屬シ特許法第十五條第二項及第四十條第三項竝ニ實用新案法第二十六條ノ規定ニヨリ準用スル特許法第十五條第二項及第四十條第三項ノ規定ニ依ル補償金

額ノ決定ヲ為スモノトス

第二十一條 特許補償審査會ハ必要ト認ムルトキハ鑑定人ヲ選ヒ又ハ出願者、特許權者及實施權者ノ出席ヲ求メ其ノ意見ヲ聽クコトヲ得

特許補償審査會ハ事實參考ノ為必要ト認ムルトキハ前項ニ掲クル者以外ノ者ノ出席ヲ求メ其ノ供述ヲ聽クコトヲ得

第二十二條 鑑定人及事實參考人ハ日當、止宿料及旅費ヲ特許補償審査會ニ請求スルコトヲ得

鑑定人ハ前項ノ費用ノ外鑑定料ヲ特許補償審査會ニ請求スルコトヲ得

民事訴訟費用法第十一條乃至第十三條ノ規定ハ前二項ノ費用ノ額ニ之ヲ準用ス

三。

特許法施行規則（抄）

昭和十三年商工省令第二號

第十九條　審査、審判、抗告審判又ハ再審ニ關スル書類ニシテ法令ニ送達スヘシトノ規定アルモノ、期日若ハ期間ヲ指定セルモノ又ハ送達ニ依リ期間ノ進行ヲ始ムルモノハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外郵便ニ依リ又ハ特許局ノ使丁ヲ以テ之ヲ送達ス

民事訴訟法第百六十五條乃至第百六十八條及第百七十六條ノ規定ハ送達ニ付之ヲ準用ス

第二十條　郵便ニ依リ送達ヲ爲ス場合ニ於テハ遞信省令、朝鮮總督府令、臺灣總督府令、關東廳令又ハ樺太廳令ノ定ムル特別ノ手續ニ依ル但シ審査ニ關スル書類ニ付テハ書留郵便ニ依ルコトヲ得

特許局ノ使丁ヲ以テ送達ヲ爲ス場合ニ於テハ民事訴訟法第百六十九條、第百七十一條（及百七十六條）ノ規定ヲ準用ス

第二十條ノ二　前二條ノ規定ハ特許收用令第十二條第二項ノ決定書ノ謄本ノ送達ニ之ヲ準用ス但シ郵便ニ依リ送達ヲ爲ス場合ニ於テハ書留郵便ニ依ル

特許法（抄）大正十年四月三十日法律第九十六號

第十五條　特許出願ニ係ル發明カ軍事上秘密ヲ要シ又ハ軍事上若ハ公益上必要ナルモノナルトキハ特許ヲ與ヘス、特許ヲ受クルノ權利ヲ政府ニ於テ收用シ又ハ制限ヲ附シテ特許ヲ與フルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ特許ヲ與ヘス、權利ヲ收用シ又ハ制限ヲ附シテ特許ヲ與フル場合ニ於テハ政府ハ相

當ノ補償金ヲ支給ス
收用及補償金支給ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十條 特許發明カ軍事上秘密ヲ要シ又ハ軍事上若ハ公益上必要ナルモノナルトキハ特許權ヲ制限シ若ハ政府ニ於テ收用シ、特許ヲ取消シ又ハ政府ニ於テ特許發明ヲ實施スルコトヲ得

特許權ノ收用アリタルトキハ其ノ特許發明ニ關スル特許權以外ノ權利ハ消滅ス

第一項ノ規定ニ依ル制限、收用、取消又ハ實施ノ場合ニ於テハ政府ハ相當ノ補償金ヲ特許權者又ハ實施權者ニ支給ス

收用、實施及補償金支給ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

遞信省所管

(一)昭和十二年度補充費途ニ比シ異動アリタル科目

款	項	目	豫算額	備考
經常部 6 年金及恩給	又恩 給	山 陸軍軍人遺族扶助料	一七、六五四、九七四円	内容擴張 根據法令 別紙第一號參照(第二三丁)

理由

恩給法中改正法律施行ニ伴ヒ大正十二年法律第四十八號恩給法施行前ニ屬スル戰鬪又ハ之ニ準スヘキ公務ノ為傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ之カ為死亡シ又ハ其ノ公務ニ依リ増加恩給ヲ受ケタル軍人ノ寡婦、父母及祖父母ニシテ其ノ軍人死亡ノ當時同一戸籍内ニ在リタルモ扶助料ヲ受クルノ資格ナカリシ者ニ對シ新ニ扶助料ヲ支給スルコトトシタルニ由ル

(二) 本年度ニ於テ補充費途ヨリ削除スヘキ科目

款	項	目
臨時船舶検査其他諸費	臨時船舶検査其他諸費	船用品検査旅費
仝	仝	船舶検査諸費

理由

本年度豫算ニ計上ナキニ至リタルニ由ル

（遞第一號）

恩給法中改正法律（抄）

昭和十三年四月一日
法律第五十六號

附則

第六條　恩給法施行前ニ戰鬪又ハ戰鬪ニ準ズベキ公務ノ為傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ之ガ為死亡シ又ハ此ノ種ノ公務ニ因リ増加恩給（之ニ準ズルモノヲ含ム）ヲ受ケタル軍人ノ寡婦、父母又ハ祖父母ニシテ軍人死亡ノ當時軍人ト同一戸籍内ニ在リタルモ軍人現役中陸海軍兵籍簿ニ登記セラレサリシ等ノ特別事由ニ因リ扶助料ヲ受クルノ資格ナカリシ者ニハ昭和十三年四月一日ヨリ之ニ扶助料ヲ給ス

但シ其ノ軍人ノ遺族ニシテ同日ニ於テ現ニ扶助料ヲ受クル者アルトキハ當該扶助料権者失権シタル後恩給法ニ規定スル順位ニ依リ之ヲ給ス

前項ニ規定スル者ト雖モ軍人死亡ノ當時ニ於テ前項ノ事由以外ノ事由ニ因リ扶助料ヲ受クルノ資格ナカリシ者又ハ其ノ後ニ失権事由アリタル者ニハ扶助料ヲ給セズ

第一項ノ扶助料ニ付テハ昭和八年九月三十日以前ノ軍人ノ遺族ノ扶助料ニ関スル規定ニ依リ其ノ年額ヲ定ムルノ外恩給法ニ依リ之ヲ給ス

第一項ノ扶助料ニ付テハ恩給法第五條ニ規定スル請求期間ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ起算ス

（参考）

第五條　恩給ヲ受クルノ権利ハ之ヲ給スヘキ事由ノ生シタル日ヨリ七年間請求セサルトキハ時效ニ因リテ消滅ス

厚生省所管

新ニ補充費途ノ指定要求ニ係ル科目

款	項	目	豫算額	備考
臨時部 24 傷痍軍人保護諸費	2 保護事業費		円	
		7 患者費	二、八六一、五四九	
		8 委託療養費	四、〇〇〇、〇〇〇	
		9 職業再教育事業費	一五九、三六四	
		10 保護雑費	四〇、〇〇〇	
		11 保護施設費補助	一、八六二、五〇〇	

理由

右各費目ハ支那事変ノ推移ニ依リ保護ヲ要スル傷痍軍人ノ増加ニ伴ヒ豫算ニ不足ヲ生スルノ虞アルニ由ル

專賣局作業特別會計

一、昭和十二年度補充費途ニ比シ異動アリタル科目

款	項	目	豫算額	備考
專賣局作業費	事業費	回送及保管費	一五五、四五二 円	内容擴張 根據法令 別紙第一號参照(第三八丁)

理由

揮發油及アルコール混用法ノ實施ニ伴ヒ專賣局ニ於テアルコールヲ揮發油ノ製造、輸入及移入業者ニ賣渡シタル場合ハ其ノ引渡場所ヨリ混入場所ニ至ル迄ノ運賃ヲ買受人ニ支給シ得ルコトトナリタルニ依リ本目中ニ該運賃ヲ包含セシメタルニ由ル

金資金特別會計

(一)新ニ補充費途ノ指定要求ニ係ル科目

款	項	目	豫算額	備考
金資金支出	諸支出金	償還金	一〇円	
		貨幣交換差減	一〇〇	

理由　右各費目ハ其ノ所要額豫定シ難ク豫算ニ不足ヲ生スルノ虞アルニ由ル

(二)本年度ニ於テ補充費途ヨリ削除スヘキ科目

款	項	目	備考
金資金支出	國債整理基金繰入	金買入借入金返償	

理由　本年度豫算ニ計上ナキニ至リタルニ由ル

関東局特別會計

(一)新ニ補充費途ノ指定要求ニ係ル科目

款	項	目	豫算額	備考
經常部 関東局	委員會費	所得調査及審査委員會費	三、〇〇〇円	根據法令 別紙第二(次頁参照)[illegible]

理由

本費ハ所得調査及審査委員會ノ爲要スル經費ニシテ之カ所要額ハ豫定シ難ク豫算ニ不足ヲ生スルノ虞アルニ由ル

款	項	目	豫算額	備考
經常部 関東局	委員會費	家屋調査及審査委員會費	三、〇〇〇円	

理由

本費ハ家屋税ノ創設ニ伴ヒ調査及審査委員會ノ爲要スル經費ニシテ之カ所要額ハ豫定シ難ク豫算ニ不足ヲ生スル

ノ虞アルニ由ル

款	項	目	豫算額	備考
經常部			円	
9 醫院及救療所	2 事務費	7 患者費	二四〇〇	内譯 別紙第三號參照（第四一丁）

理由

本費ハ醫院及救療所ニ於ケル患者費ニシテ患者數ノ多寡ニ依ルモノナルヲ以テ之カ所要額ハ豫定シ難ク豫算ニ不足ヲ生スルノ虞アルニ由ル

款	項	目	豫算額	備考
臨時部			円	
12 思想犯罪防遏特別施設費	1 思想犯罪防遏特別ノ施設費	2 調査及觀察旅費	一、三一八	内譯 別紙第四號參照（第四二丁）
		3 治安維持法違反者連行旅費	八七	
		4 委託費補給	二、五五五	

理由

三七

本費ハ思想犯保護觀察法ヲ関東州ニ施行スルニ伴ヒ治安維持法違反者ノ調査、觀察連行旅費及委託費補給ノ爲要スル經費ニシテ被保護者ノ多寡、觀察、連行ノ度數等ニ依ルモノナルヲ以テ其ノ所要額ハ豫定シ難ク豫算ニ不足ヲ生スルノ虞アルニ由ル

(二)昭和十二年度補充費途ニ比シ異動アリタル科目

款	項	目	豫算額	備考
經常部 14諸支出金ノ	諸支出金	18會交付金	円 一八〇〇	内容擴張 内譯 別紙第五號參照(第四二丁)

理由

地租規則ノ改正ニ伴ヒ地租ノ徴收事務ヲ會ニ委託スル爲ノ交付金ヲモ本目中ニ包含セシメタルニ由ル

款	項	目	豫算額	備考
經常部				内容擴張

三之7	遞信費	又遞信事業費	乃郵便取扱手数料	二八〇、大三三	根據法令 別紙第六號参照

理由

満洲國政府ニ對シ元南満洲鐵道附屬地ニ於ケル外國郵便業務ヲ委託スル爲支拂フヘキ取扱手数料ヲモ本目中ニ包含セシメタルニ由ル

四 本年度ニ於テ補充費途ヨリ削除スヘキ科目

款	項	目	備考
遞信費	遞信事業費	瓦斯計量器検定出張旅費	
公債端金	退職特別賜金公債端金	退職特別賜金公債端金	

理由

本年度豫算ニ計上ナキニ至リタルニ由ル

（大特第一號）

揮發油アルコール混用法（抄）昭和十二年四月一日法律第三十九號

第一條　揮發油ノ製造、輸入又ハ移入ヲ業トスル者其ノ工場若ハ貯油所ヨリ揮發油ヲ搬出セントスルトキ又ハ其ノ工場若ハ貯油所ニ於テ揮發油ヲ使用シ若ハ之ヲ他ノ者ニ引渡サントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ揮發油ニアルコールヲ混入スヘシ但シ勅令ニ別段ノ規定アルトキハ此ノ限ニ在ラス [illegible]

政府ハ前項ノ規定ニ依リ揮發油ニアルコールヲ混入スヘキ割合ヲ定メ之ヲ告示ス

アルコール賣捌規則改正案（抄）昭和十二年四月一日大藏省令第十一號

第十條ノ四　販賣官署揮發油混入用アルコールヲ揮發油ノ製造、輸入又ハ移入ヲ業トスル者ニ賣渡シタルトキハ

買受人ニ對シ其ノ現品引渡場所ヨリ混入場所ニ至ル迄ノ運賃ヲ支給スルコトヲ得
前項ノ運賃ハ專賣局長官之ヲ定ム
販賣官署ハ其ノ賣渡シタル揮發油混入用アルコールノ運送方法及運送經路ヲ指定スルコトヲ得

（大特第二號）

關東州所得稅令（昭和十二年六月二十五日勅令第二百八十九號）（抄）

第三十二條　各民政署所轄内ニ所得調査委員會ヲ置ク
所得調査委員會ハ會長及調査委員ヲ以テ之ヲ組織ス
會長ハ民政署長ヲ以テ之ニ充ツ
調査委員ノ定數ハ大使之ヲ定ム

第三十三條　調査委員ハ所得調査委員會ノ屬スル區域内ニ居住シ前年第三種ノ所得稅ヲ納メ其ノ年第三十條第一項ノ申告ヲ爲シタル者ニ就キ關東州廳長官之ヲ命ス
前項ノ場合ニ於テ被相續人ノ爲シタル納稅又ハ申告ハ其ノ相續人ノ納稅又ハ申告ト看做ス

第三十四條　調査委員ノ任期ハ二年トス但シ補缺ノ調査委員ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

第三十五條　調査委員左ノ各號ノ一ニ該當スルニ至リタルト

キハ其ノ職ヲ失フ
一、第三種ノ所得ニ付納税義務ヲ有セザルニ至リタルトキ
二、所得調査委員會ノ屬スル區域内ニ居住セザルニ至リタルトキ
調査委員職務ヲ怠リ又ハ體面ヲ汚損スル行爲アリタルトキハ關東州廳長官ハ之ヲ解任スルコトヲ得
第三十六條　調査委員ニハ大使ノ定ムル所ニ依リ手當及旅費ヲ給ス
第三十七條　所得調査委員會ノ議事ニ關スル事項ハ大使之ヲ定ム
第三十八條　七月十五日迄ニ所得調査委員會成立セザルトキ又ハ諮問事項ヲ議了セザルトキハ政府ハ直ニ所得金額ヲ決定ス
第四十五條　前條第一項ノ請求アリタルトキハ所得審査委

員會ニ諮問シ政府ニ於テ之ヲ決定ス

所得審査委員會ハ前條第一項ノ請求ヲ爲シタル者ニ對シ其ノ所得ニ關スル事實ヲ質問スルコトヲ得

第四十六條　所得審査委員會ハ關東州廳ニ之ヲ置ク

所得審査委員會ハ會長及審査委員六人ヲ以テ之ヲ組織ス

會長ハ關東州廳高等官中ヨリ大使之ヲ命ズ

審査委員ハ關東州廳高等官中ヨリ三人、調査委員中ヨリ三人ヲ大使ニ於テ命ズ

所得審査委員會ノ議事ニ關スル事項ハ大使之ヲ定ム

第四十七條　調査委員中ヨリ命ゼラレタル審査委員ニハ大使ノ定ムル所ニ依リ日當及旅費ヲ給ス

(大特第三號)

患者費豫算内譯

科目及區分	員数	單價	金額	備考
患者費			二四、八〇〇 〇〇〇	
藥品及消耗品			一一、四八七 〇〇〇	
患者	延一六、五〇〇人 一八、二五〇	〇 五〇〇 〇 一五〇	一一、四八七 〇〇〇	
食糧及滋養品			一三、三一三 〇〇〇	
患者	延一六、五〇〇 一八、二五〇	〇 五〇〇 〇 二五〇	一三、三一三 〇〇〇	

（大特第四號）

思想犯保護觀察法施行ニ關スル經費內譯

科目	金額	備考			
思想犯罪防遏特別施設費	一、三〇五				
思想犯罪防遏特別施設費	一、三〇五	目及區分	員數	單價	金額
		調査及觀察旅費			一、二一八〇〇〇
		調査旅費			一七四〇〇〇
		觀察旅費			一、〇四四〇〇〇
		治安維持法違反者連行旅費			八七〇〇〇
		保護委員旅費			五〇〇〇〇
		違反者旅費			三七〇〇〇
		委託費補給			七、三〇〇〇〇〇
		治安維持法違反者委託費補給	延七三〇〇	一人 一〇〇〇	七、三〇〇〇〇〇
		計			八、六〇五〇〇〇

目	金額
給與外一目	六七〇、〇〇〇
合計	[illegible]

（大特第五號）

關東局令案

會ノ區域内ニ於ケル地租收納ニ關スル件

第一條　税務署長又ハ民政署長ハ會ノ區域内ニ於ケル地租ヲ其ノ會ヲシテ取纒メシムルコトヲ得但シ納人ヨリ直接納付セシムルヲ便利ト認ムルトキ又ハ民政署所在地ノ會ニ在リテハ此ノ限ニ在ラズ

第二條　前條ノ規定ニ依リ會ニ於テ地租ノ取纒ヲ爲シタルトキハ其ノ取纒メタル金額ノ百分ノ五ニ相當スル金額ヲ其ノ會ニ交付ス

（大特第六號）

滿洲國ニ於ケル治外法權ノ撤廢及南滿洲鐵道付屬地行政權ノ移讓ニ關スル日本國滿洲國間條約（抄）

（昭和十二年十一月八日交付
條約第十五號）

第二條

日本國政府ハ其ノ內國制度ニ於ケル取扱ニ準シテ滿洲國ノ內國制度ニ類似ノ取扱ナキモノ其ノ他特ニ必要アル事務ノ取扱ヲ滿洲國政府ニ委託スルコトヲ得委託セラルベキ事務ノ種類及範圍ハ日滿兩國主管廳間ノ業務協定ヲ以テ之ヲ定ム

滿洲國政府ハ前項ノ委託事務ニ付善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ日本國政府ノ爲ニ日本國法令ニ準據シテ之カ處理ヲ爲スベシ

日本國政府ハ委託事務ノ處理ニ付滿洲國政府ニ手數料ヲ支拂フモノトス

海軍火藥廠作業特別會計

(一)本年度ニ於テ補充費途ヨリ削除スヘキ科目

款	項	目	備考
諸支出金	諸支出金	健康保險料	

理由

本年度豫算ニ計上ナキニ至リタルニ由ル

海軍燃料廠作業特別會計

（一）本年度ニ於テ補充費途ヨリ削除スヘキ科目

款	項	目	備考
諸支出金	諸支出金	健康保険料	

理由

本年度豫算ニ計上ナキニ至リタルニ由ル

農林省所管特別會計

新ニ補充費途ノ指定要求ニ係ル事項

會計名	款	項	目	豫算額	備考
絲價安定施設	絲價安定施設費	5 諸支出金	4 償還金	五〇円	
森林火災保險	森林火災保險費	3 諸支出金	5 償還金	五〇	
漁船再保險	漁船再保險費	4 諸支出金	4 償還金	五〇	

理由

右各費目ハ其ノ所要額豫定シ難ク豫算ニ不足ヲ生スルノ虞アルニ由ル

通信事業特別會計　業務勘定

一、本年度補充費途ヨリ削除スヘキ科目

款	項	目	備考
通信業務費	業務費	普通三等局簡易生命保険取扱費 普通三等局郵便年金取扱費	

理由

右各費目ハ従来簡易生命保険特別會計及郵便年金特別會計ニ所属シ補充費途タリシモノナルカ通信事業特別會計ニ於テハ其ノ性質上豫備費ヲ以テ補充スルヲ適當トシタルニ由ル

拓務省所管朝鮮總督府特別會計

一）新ニ補充費途ノ指定要求ニ係ル科目

款	項	目	豫算額	備考
經常部 12 中央試驗所	2 事業費	6 工業技術員派遣費	一、八〇〇 円	根據法令 別紙第一號參照（第[illegible]丁）

理由

本費ハ工業ニ關スル試驗、分析、鑑定、實地指導、講習等申請ニ依ル工業技術員ノ派遣件數ニ伴フ經費ナルヲ以テ其ノ所要額ハ豫定シ難ク豫算ニ不足ヲ生スルノ虞アルニ由ル

款	項	目	豫算額	備考
經常部 22 税務監督局及税務署	2 事務費	10 酒造組合交付金	五七、七五五 円	根據法令 別紙第二號參照（第五一丁）

理由

本費ハ酒造組合ニ對シ交付スル經費ナルカ製造酒類ノ課税額ニ伴フモノナルヲ以テ其ノ所要額豫定シ難ク豫算ニ不足ヲ生スルノ虞アルニ由ル

款	項	目	豫算額	備考
臨時部				
3 補助及奨勵費	勧業補助	25 石炭紙温乾館事業補助	一〇〇、〇〇〇 円	根據法令 別紙第三號參照（第五二丁）

理由 本費ハ人造石油製造數量ノ多寡及生産費、揮發油ノ販賣價格ニ依リ増減スルモノナルヲ以テ其ノ所要額豫定シ難ク豫算ニ不足ヲ生スルノ虞アルニ由ル

款	項	目	豫算額	備考
臨時部				
32 臨時利得税徴收費	1 臨時利得税徴收費	6 府邑面交付金	一三、五八四 円	根據法令 別紙第四號參照（第五四丁）

理由

本費ハ個人臨時利得税徵收ニ對シ府邑面ニ交付ヲ要スル經費ニシテ其ノ所要額豫定シ難ク豫算ニ不足ヲ生スルノ虞アルニ由ル

款	項	目	豫算額	備考
臨時部 33 北支事件特別税徵收費	1 北支事件特別税徵收費	4 府邑面交付金	二五、二一八円	根據法令 別紙第四號參照(第十四丁)

理由

本費ハ第三種所得特別税徵收ニ對シ府邑面ニ交付ヲ要スル經費ニシテ其ノ所要額豫定シ難ク豫算ニ不足ヲ生スルノ虞アルニ由ル

(二) 昭和十二年度補充費途ニ比シ異動アリタル科目

款	項	目	豫算額	備考
經常部 6 地方廳	2 事務費	18 滞納者處分費	一、三〇〇	内容擴張 根據法令 別紙第五號參照（第五五丁）
22 税務監督局及税務署	6 處分費	1 滞納者處分費	二五、六四九	

理由

日満國税徴收事務共助法ノ施行ニ伴ヒ満洲國ノ國税其ノ他ニ對シ滞納處分ヲ執行スル場合本費ノ支出ヲ要スルニ由ル

款	項	目	豫算額	備考
經常部 28 諸支出金	1 諸支出金	13 市街地計畫令及道路令鑑定人其他諸費	六〇〇	修正 根據法令 別紙第六號參照（第五六丁）

理由

道路令ニ依ル鑑定人諸費ヲ本目ニ包含セシメタルニ由ル

（朝第一號）

朝鮮總督府中央試驗所工業技術員派遣規則

府令案

第一條　朝鮮總督府中央試驗所（以下單ニ中央試驗所ト稱ス）ハ工業ニ関シ試驗、分析、鑑定、調査、實地指導、講習、講演等ノ為職員派遣ノ申請ハ別段ノ定メアル場合ヲ除クノ外本則ノ定ムル所ニ依ル

第二條　技術職員派遣ノ申請ハ左ノ事項ヲ記載シ申請人之ニ署名捺印シ中央試驗所長ニ提出スヘシ

一、申請人ノ氏名又ハ名稱及住所

二、申請ノ目的タル事項

三、派遣ヲ受ケムトスル期間及場所

第三條　申請者ハ職員派遣ニ関シ左ニ掲クル費用ヲ負担スヘシ但シ中央試驗所長其必要ナシト認ムル場

合ハ此ノ限リニ在ラス

一、朝鮮總督府旅費規程(又ハ外國旅費規則)ニ依ル旅費

二、器具機械費、通信費、通辯費、運搬費、人夫費其他必要ナル費用

第四條 派遣ノ申請ヲ許可シタルトキハ申請者ニ第三條ノ費用ノ概算ヲ通知ス

第五條 申請者ハ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ中央試驗所ニ其ノ費用ヲ前納スヘシ

前項ノ規定ニ依リ納メタル概算額ニ付精算ヲナシタル場合ニ於テ不足アルトキハ之ヲ追納セシメ過剰アルトキハ之ヲ返戻ス

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（朝第二號）

酒造組合令案（抄）

第十四條　朝鮮總督ハ酒造組合ニ對シ徴税上必要ナル設備ヲ為シ又ハ徴收事務ノ補助ヲ為スヘキコトヲ命スルコトヲ得

前項ノ酒造組合ニ對シテハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ交付金ヲ交付スルコトヲ得

酒造組合令施行規則案（抄）

第十五條　朝鮮酒造組合令第十四條第一項ノ規定ニ依リ税務署長ハ酒造組合ニ對シ徴税上必要ナル設備ヲ為シ又ハ徴收事務ノ補助ヲ為スヘキコトヲ命スルコトヲ得

前項ノ酒造組合ニ對シテハ所屬酒類ノ種類

ニ従ヒ毎酒造年度間ニ於テ各組合員ノ製造酒類ノ課税額ノ千分ノ三ノ割合ヲ以テ計算シタル金額ノ交付金ヲ交付ス此ノ場合ニ於テ一圓未満ノ端数アルトキハ之ヲ一圓トシテ計算ス
酒造組合第一項ノ命令ニ違反シタルトキハ交付金ノ全部又ハ一部ヲ交付セサルコトヲ得

（朝第三號）

人造石油製造事業法（昭和十二年八月十日法律第五十二號）抄

第九條 政府ハ人造石油製造會社ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ製造シタル人造石油ニ付奬勵金ヲ交付スルコトヲ得

同法施行令（昭和十三年一月二十四日勅令第四十一號）抄

第九條 人造石油製造事業法第九條ノ奬勵金ハ人造石油製造會社ニ對シ命令ヲ以テ定ムル人造石油ニ付之ヲ交付ス

奬勵金ノ額ハ人造石油ノ市價及生産費ヲ標準トシ相當利益ヲ參酌シテ商工大臣毎年之ヲ定ム

同法施行規則（昭和十三年一月二十四日商工省令第一號）

第十條　人造石油製造事業法施行令第九條第一項ノ人造石油ハ左ニ掲クルモノトス

一　第一種人造石油　日本標準規格第百七十四號石油製品試験方法第六條分溜試験ニ依ル九十五パーセント溜出温度攝氏二百二十五度以下ノ人造石油

二　第二種人造石油　第一種人造石油以外ノ人造石油

人造石油製造事業法施行令第九條第二項ノ奨勵金ノ額ハ朝鮮總督之ヲ告示ス

第十一條　人造石油製造事業法第九條ノ奨勵金ノ交付ヲ受ケントスル會社ハ毎年一月一日ヨリ六月三十日迄ノ製造ニ係ル人造石油ニ付テハ七月十五日迄ニ、七月一日ヨリ十二月三十一日迄ノ製造ニ係ル人造石油ニ付テハ翌年一月十五日迄ニ申請書ヲ朝鮮總督ニ提出スヘシ

第十二條　人造石油製造事業法第九條ノ規定ニ依リ奨

勵金ノ交付ヲ受ケ又ハ受ケントスル會社ハ原料及材料ノ取得及使用、製品ノ製造及販賣又ハ引渡其ノ他事業ノ狀況ヲ明ニスヘキ帳簿書類ヲ其ノ工場ニ備ヘ置クヘシ

人造石油製造事業法施行期日ノ件（昭和十三年一月二十二日勅令第四十號）

人造石油製造事業法ハ昭和十三年一月二十五日ヨリ之ヲ施行ス

人造石油製造事業法ノ一部ヲ朝鮮ニ施行スルノ件（昭和十三年一月二十二日勅令第四十四號）

人造石油製造事業法ハ第五條乃至第七條及第十九條ノ規定ヲ除キ之ヲ朝鮮ニ施行ス

附則

本令ハ昭和十三年一月二十五日ヨリ之ヲ施行ス

（朝第四号）

國税徴收令　抄（明治四十四年十一月制令第十四號）

第五條　國税徴收ノ費用ハ府邑面ノ負擔トシ國庫ニ納付シタル税金ノ百分ノ三ニ相當スル金額及納税告知書一通ニ付ニ錢ノ割合ヲ以テ計算シタル金額ヲ其ノ府邑面ニ交付ス

驛屯土ノ賣拂代金、貸付料及洑ノ使用料收納ニ関スル件（大正九年十一月朝鮮總督府令第一六六號）

府邑面ハ其ノ府邑面内ノ驛屯土ノ賣拂代金、貸付料及洑ノ使用料ヲ收納シ之ヲ國庫ニ納入スヘシ但シ競爭入札ニ付シタル驛屯土ノ賣拂代金其ノ他一時ニ納付スヘキ賣拂代金ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ賣拂代金、貸付料及使用料ノ收納ノ費用ハ府邑面ノ負

擔トレ國庫ニ納入レタル金額ノ百分ノ三ニ相當スル金額及納入告知書一通ニ付二錢ノ割合ヲ以テ計算シタル金額ヲ府邑面ニ交付ス

國税徴收令施行規則抄（明治四十四年十二月二十九日朝鮮總督府令第百五十七號）

第一條　左ニ掲クル國税ハ府邑面ニ於テ之ヲ徴收スヘシ但シ納税義務者ヨリ直接納付セシムルヲ便利ナリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

一　第三種所得税
二　地税
三　營業税
四　乙種ノ資本利子税
五　第三種所得特別税
六　個人ノ臨時利得税

（朝第五號）

勅令第三百五十二號（昭和十三年五月十八日）

日滿國稅徵收事務共助法ハ第四條ノ規定ヲ除ク
ノ外之ヲ朝鮮及樺太ニ施行ス

附則

本令ハ昭和十三年五月二十日ヨリ之ヲ施行ス

前項ノ決定ニ不服アル者ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ裁定ヲ求ムルコトヲ得

朝鮮市街地計畫令施行規則

第二十六條　前條ノ鑑定人及事實參考人ニハ旅費及手當ヲ支給ス其ノ金額及支給方法ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ道知事之ヲ定ム

前條ノ關係人ニハ前項ノ規定ニ準ジ旅費及手當ヲ支給スルコトヲ得

前二項ノ旅費及手當ハ國ニ於テ支給ス但シ計畫事業ニ付費用ヲ負擔スル者ガ公共團体ナルトキハ其ノ公共團体ニ於テ之ヲ支給スベシ

前項ノ規定ニ依リ國ガ私人ニ於テ執行スル計畫事業ニ關シ旅費又ハ手當ヲ支給シタルトキハ國ハ之ニ

相當スル金額ヲ其ノ私人ヨリ徴收ス

朝鮮道路令（抄） 昭和十三年四月四日 制令第十五號

第三十八條 道路ニ關スル調査、測量又ハ工事ノ爲必要アルトキハ管理廳ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ必要ナル場所ニ立入リ、他人ノ土地ヲ材料置場、通路若ハ假道トシテ一時使用シ又ハ已ムコトヲ得ザルトキハ立木竹其ノ他ノ障碍物ヲ變更若ハ除却スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ立入又ハ使用ヲ爲サントスルトキハ土地ノ占有者ニ、障碍物ノ變更又ハ除却ヲ爲サントスルトキハ其ノ所有者（及占有者）ニ豫メ其ノ旨ヲ通知スルコトヲ要ス

第三十九條　非常災害ノ為必要アルトキハ管理廳ハ道路附近ニ居住スル者ヲ使役シ、道路附近ノ土地及家屋其ノ他ノ工作物ヲ一時使用シ、道路附近ノ工作物其ノ他ノ障碍物ヲ變更若ハ除却シ又ハ土石、竹木、運搬具其ノ他ノ物件(工作物ヲ除ク)ヲ使用若ハ收用スルコトヲ得

第五十四條　第三十八條、第三十九條又ハ第五十八條ノ規定ニ依ル處分ニ因リ損害ヲ受ケタル者アルトキハ管理廳又ハ管理廳ノ職權ヲ行フ行政廳ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ損害ヲ補償スベシ

前項ノ損害ガ第五十八條第四號ノ規定ニ依ル處分ニ因ルモノナルトキハ管理廳又ハ管理廳ノ職權ヲ行フ行政廳ハ同條同號ノ事業ニ付費用ヲ負擔スル者ヲシテ損害ノ全部又ハ一部ヲ補償セシメルコトヲ得

第五十八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ管理廳ハ本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ依リ許可又ハ承認ヲ受ケタル者ニ對シ許可若ハ承認ヲ取消シ、其ノ効力ヲ停止シ若ハ其ノ條件ヲ變更シ、許可若ハ承認ニ基キテ施設シタル工作物其ノ他ノ物件ヲ變更若ハ除却セシメ、原狀回復ヲ為サシメ又ハ損害ヲ豫防スル為必要ナル施設ヲ為サシムルコトヲ得

一　道路ノ狀況ノ變更ニ因リ必要ヲ生シタルトキ

二　道路ニ關スル工事ノ為必要アルトキ

三　公害ヲ除却又ハ輕減スル為必要アルトキ

四　前二號ノ場合ヲ除クノ外公共ノ利益ト為ルベキ事業ノ為必要アルトキ

第六十二條　本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ依リ道知事、府尹又ハ邑面長ノ為シタル處分ニ不服ア

ル者ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ裁定ヲ申
請スルコトヲ得第五十四條ノ規定ニ依ル補償ニ付
不服アル者亦同ジ

拓務省所管臺灣總督府特別會計

(一) 新ニ補充費途ノ指定要求ニ係ル科目

款	項	目	豫算額	備考
經常部 2 總督府	11 地方防空委員會費補助	1 地方防空委員會費補助	一一、一二五 円	根據法令 別紙第一號参照(第六二丁)

理由 防空法ノ實施上豫メ支出額ヲ豫定シ難ク豫算ニ不足ヲ生スルノ虞アルニ由ル

款	項	目	豫算額	備考
經常部 9 試驗場及研究所	1 農業試驗場費	6 事業費 (依頼試驗用諸費)	二七四、〇六二 円 (二〇〇)	
	3 工業研究所費	5 事業費 (依頼試驗用諸費)	一二六、六四二 (一七、六五三)	

理由 前年度ハ中央研究所ノ款、事業費ノ項、依頼試驗用諸費

ノ目ナリシヲ本目ニ改メ依頼試驗用諸費ノ節ニ於テ補充費途トナスノ要求ナリ

款	項	目	豫算額	備考
經常部 9試驗場及研究所	4糖業試驗所費	5事業費（受託試驗費）	二六一、四七五（一、〇〇〇）	「前年度補充費途名ハ受託調查及試驗費」

理由

前年度ハ糖業試驗所ノ款、事業費ノ項、受託試驗費ノ目ナリシヲ本目ニ改メ受託試驗費ノ節ニ於テ補充費途トナスノ要求ナリ

款	項	目	豫算額	備考
經常部 11臺北帝國大學	2學校費	14病院費（患者費）	二九九、二九四（九四、五〇〇）	根據法令別紙第二號參照（第六四丁）

理由

病院費中患者費ハ患者數ノ多寡等ニ依ルモノナルヲ以テ

共ノ所要額豫定シ難ク豫算ニ不足ヲ生スルノ虞アルニ由ル　因ニ患者費ハ元別途補充費途タル醫院患者費ニ包含セラレ補充費途タリシモノナルカ本年度ハ臺北帝國大學附屬醫院トシテ獨立シタルニ伴ヒ新ニ補充費途名ヲ設置セントスルモノナリ

款	項	目	豫算額	備考
經常部 15 專賣局	3 專賣品包裝及運搬費	（全目）	四八四、二四三円	根據法令 別紙第三節參照（第六五丁）

理由

本費ハ各種專賣品包裝運搬數量ノ多寡ニ伴フモノナルヲ以テ其ノ所要額ハ豫定シ難ク豫算ニ不足ヲ生スルノ虞アルニ由ル

款	項	目	豫算額	備考
臨時部				

15 北支事件特別税ノ徴収費	北支事件特別税徴収費	4 市街庄區交付金	一二、〇一五	根據法令 別紙第四號參照（第六九丁）

理由

本費ハ市街庄區ニ於ケル北支事件特別税ノ取扱高ニ對應スルモノニシテ其ノ所要額豫定シ難ク豫算ニ不足ヲ生スルノ虞アルニ由ル

款	項	目	豫算額	備考
臨時部				
21 臨時防空及警備費	臨時防空及警備費	11 防空施設費補助	一〇三、五〇〇	根據法令 別紙第一號參照（第六二丁）

理由

本費ハ防空施設ノ實施如何ニ依ルモノニシテ其ノ所要額豫定シ難ク豫算ニ不足ヲ生スルノ虞アルニ由ル

(二) 昭和十二年度補充費途ニ比シ異動アリタル科目

款	項	目	豫算額	備考
14 經常部 交通局	3 遞信事業費	16 國際電氣通信株式會社交付金	一四六四〇四 円	

理由 前年度ハ國際電話株式會社交付金ノ目ナリシヲ本目ニ改ム

款	項	目	豫算額	備考
19 經常部 諸支出金	諸支出金ノ諸支出金	12 滞納處分費	一四、二六七 円	根據法令 別紙第五號参照（第七〇丁）

理由 日滿國稅徵收事務共助法ノ施行ニ伴ヒ滿洲國ノ國稅其ノ他ニ對シ滯納處分ヲ執行スル場合本費ノ支出ヲ要スルニ由ル

（臺第一號）

防空法抄

（昭和十二年四月五日法律第四十七號）

第十五條　防空計畫ノ設定、防空ノ實施、防空ノ實施ニ關シ必要ナル設備若ハ資材ノ整備、第十條第一項ノ規定ニ依ル防空ノ訓練又ハ第十二條ノ規定ニ依ル給與ヲ為スニ要スル費用ハ地方長官之ヲ為ス場合ニ於テハ北海道又ハ府縣、市町村長之ヲ為ス場合ニ於テハ市町村、第三條第一項ノ規定ニ依ル防空計畫ノ設定者之ヲ為ス場合ニ於テハ其ノ者ノ負擔トス

特殊施設ノ管理者又ハ所有者第五條ノ規定ニ依リ設備又ハ資材ノ整備ヲ為スニ要スル費用ハ其ノ者ノ負擔トス

第十六條　防空委員會ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條　國庫ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ左ノ諸費ニ對シ其ノ二分ノ一以内ヲ補助ス

一　第十五條第一項ノ規定ニ依リ北海道、府縣、市町村又ハ第三條第一項ノ規定ニ依ル防空計畫ノ設定者ノ負擔スル費用

二　第十五條第二項ノ規定ニ依リ特殊施設ノ管理者又ハ所有者ノ負擔スル費用

三　防空委員會ニ關シ北海道、府縣又ハ市町村ノ負擔スル費用

防空法臺灣施行令抄

（昭和十二年十二月四日 勅令第六百四十三號）

第一條　防空法ハ第十三條第二項、第十四條第二項及第二十條ノ規定ヲ除クノ外之ヲ臺灣ニ施行ス

第二條　防空法中第十六條及第二十二條ノ規定ヲ除クノ外勅令トアルハ臺灣總督府令トス

同法中主務大臣トアルハ臺灣總督トス但シ同法第十一條中主務大臣トアルハ臺灣總督、臺灣軍司令官、馬公要港部司令官トス

同法中防空委員會トアルハ臺灣防空委員會トス

第三條第三項　同法第十七條中第十五條第一項ノ規定ニ依リ北海道、府縣、市町村トアルハ第十五條第一項及防空法臺灣施行令第六條ノ規定ニ依リ州廳、市街庄トシ北海道、府縣又ハ市町村トアルハ州廳又ハ市街庄トス

防空法施行規則 （昭和十二年十一月四日 臺灣總督府令第百四十六号）

第十四條 防空法第十七條ノ規定ニ依ル國庫補助ハ支出精算額ニ對シ之ヲ為ス但シ寄附金其ノ他ノ收入アルトキハ之ヲ控除シタル額ニ對シ補助ス

前項ノ規定ニ依リ交付シタル國庫補助金ハ左ニ掲クル場合ニ於テハ其ノ全部又ハ一部ヲ返還セシムルコトヲ得

一 設備又ハ資材ヲ廢棄シ又ハ之ニ変更ヲ加ヘ當初ノ目的ヲ達シ得サルニ至リタルトキ

二 補助金交付ノ條件ニ違反シタルトキ

（臺第二號）

臺北帝國大學官制抄（昭和十三年三月三十日勅令第百六十四號）

第十二條　醫學部ニ附屬醫院ヲ置ク

醫院ニ左ノ職員ヲ置ク

醫院長

藥局長　專任一人　奏任

藥劑手　專任九人　判任

看護長　專任九人　判任

第十三條　醫院長ハ醫學部ニ屬スル教授ノ中ヨリ臺灣總督之ヲ補ス

醫院長ハ總長ノ監督ノ下ニ於テ醫院ノ事務ヲ掌理ス

附則

本令ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

（臺第三號）

臺湾食塩専賣規則抄（大正十五年七月三十日律令第五號）

第二條　政府ハ食塩ノ専賣権ヲ有ス

臺湾食塩専賣規則施行規則抄（大正十五年七月三十日臺湾総督府令第六十三號）

第三十一條　政府ヨリ賣拂人ニ賣渡ス食塩ハ専賣官署又ハ専賣官署長ノ指定スル場所ニ於テ之ヲ引渡スヘキモノトス

専賣官署又ハ専賣官署長ノ指定シタル場所ヨリ賣拂人ノ營業場、貯藏所若ハ賣拂人カ特ニ専賣局長ノ許可ヲ受ケ小賣人ニ食塩ヲ引渡ス場所ニ至ル迄ノ運賃並包裝費ハ一定ノ割合ヲ以テ政府之ヲ支給ス

専賣局長必要ト認ムルトキハ賣拂人ニ賣渡シタル運送ニ付其ノ運送人ヲ指定スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ

其ノ指定シタル運送人ノ責ニ帰スヘカラサル事由ニ因リ食塩滅失若ハ毀損シタルトキハ政府ハ現品ノ補給又ハ引替ヲ為スコトヲ得

粗製樟脳、樟脳油専売法抄　（明治三十六年六月十六日法律第五号）

第一条　政府ハ粗製樟脳、樟脳油ノ専売権ヲ有ス

臺湾阿片令抄　（昭和三年十二月二十八日律令第三号）

第三条　阿片ノ製造並ニ阿片烟膏及薬用阿片ノ賣下ハ政府ニ於テ之ヲ行フモノトス
阿片吸食器具ハ政府ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ製造スルコトヲ得ス

阿片烟膏及薬用阿片取扱手續　（明治四十三年十二月臺湾總督府訓令第二百四十号）

第三條　臺灣總督府專賣局ト州、廳、郡トノ間ニ於ケル阿片烟膏及藥用阿片運搬費ハ臺灣總督府專賣局ノ支辨トシ州、廳、郡ト取次人及卸賣人トノ間ニ於ケル運搬費ハ元賣捌人及小賣人ノ負擔トス

臺灣煙草專賣規則（明治三十八年三月三日律令第一號）

第一條　煙草ノ製造ハ政府ニ專屬ス

臺灣煙草專賣規則施行規則（昭和三年六月二日臺灣總督府令第三十六號）

第五十三條　政府ヨリ賣捌人ニ賣渡ス煙草ノ引渡ハ專賣官署ノ倉庫又ハ政府ノ指定シタル場所ニ於テ之ヲ行フ

專賣官署ノ倉庫又ハ政府ノ指定シタル場所ヨリ賣捌人ノ營業所又ハ專賣局長ニ於テ特ニ運搬費ヲ支給スヘキモノト認メタル荷置場ニ至ル迄ノ煙草荷造運搬費ハ一定ノ割合ヲ以テ政府之ヲ支給ス

前項ニ依リ運搬費ヲ支給スヘキ場合ニ於テ專賣局長必要ト認ムルトキハ其ノ煙草ノ運送業者ヲ指定シ賣捌人ノ為ニ運送契約ヲ締結スルコトヲ得

前項ニ依リ運搬ヲ為サシメタル場合ニ於テハ政府ハ第一項ノ荷造運搬費ヲ直接其ノ運送業者ニ支拂フコトヲ得

臺灣酒類專賣令

（大正十一年五月五日律令第三號）

第一條　本令ニ於テ酒類トハ酒精及酒精含有飲料ニシテ酒精分九十度未滿ノモノヲ謂フ

「前項ニ於テ酒精分ト稱スルハ攝氏検温器十五度ノ時ニ於テ原容量百分中ニ含有スル〇・七九四七ノ比重ヲ有スル酒精ノ容量ヲ謂フ」

第二條　酒類ノ製造ハ政府ニ專屬ス

臺湾酒類專賣令施行規則（大正十一年五月五日臺湾總督府令第百九號）

第十二條　政府ヨリ賣渡ス酒類ハ專賣官署ノ倉庫又ハ政府ノ指定シタル場所ニ於テ之ヲ引渡スモノトス

專賣官署ノ倉庫又ハ政府ノ指定シタル場所ヨリ賣捌人ノ營業場又ハ專賣局長ニ於テ特ニ必要ト認メタル貯藏場ニ至ル迄ノ運送賃ハ一定ノ割合ヲ以テ政府之ヲ支給ス但シ專賣局長必要ト認ムルトキハ其ノ運送業者ヲ指定スルコトアルヘシ

賣捌人ハ酒類ヲ小賣人ノ營業場迄配達スヘシ所轄專賣官署ノ承認ヲ受ケ一定ノ運送賃ヲ交付シテ現品ノ配達ニ代フルコトヲ得

臺灣酒精令

（大正十一年律令第四號）

第十六條　政府ハ臺灣ニ於テ消費スル酒精ノ專賣權ヲ有ス但シ第十一條第四號ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十七條　臺灣酒類專賣令第五條乃至第七條及第九條ノ規定ハ別條ノ酒精ニ付之ヲ準用ス

臺灣酒類專賣令

（大正十一年律令第三號）

第五條　酒類ハ政府又ハ政府ノ指定シタル酒類賣捌人若ハ酒類小賣人ニ非サレハ之ヲ販賣スルコトヲ得ス

酒類ノ販賣及販賣者ニ關スル規定ハ臺灣總督之ヲ定ム

臺灣酒精令施行規則（大正十一年臺灣總督府令第百十五號）

第二十五條　臺灣酒精令第十六條ノ酒精ハ酒類販賣者ニ於テ之ヲ販賣スルモノトス

臺灣酒類專賣令施行規則第一條、第二條、第九條乃至第十六條、第十九條乃至第二十二條及第二十四條乃至第二十八條ノ規定ハ前項ノ酒精ノ販賣及販賣者ニ付之ヲ準用ス

臺灣酒精專賣令ノ施行規則（大正十一年府令第百九號）

前葉參照

（臺第四號）

臺灣國税徵收規則抄（大正二年四月一日律令第三號）

第一條　國税ノ徵收ニ關シテハ本令ニ定ムルモノノ外國税徵收法ニ依ル但シ同法中勅令トアルハ臺灣總督府令、帝國トアルハ臺灣、市町村内トアルハ市内、街庄内又ハ區内、大藏大臣トアルハ臺灣總督、市町村吏員トアルハ市、街庄又ハ區ノ職員トシ市町村ノ事務ハ市、街庄又ハ區長、市町村長ノ事務ハ市尹、街庄長又ハ區長之ヲ行フ

市、街庄又ハ區長ニ於テ徵收スル國庫金ノ種目竝交付金ニ関スル件（大正十年六月七日臺灣總督府令第百十二號）

第一條　市、街庄又ハ區長ハ其ノ市、街庄又ハ區内ノ左記諸收入金ノ徵收ヲ為スヘシ

五　第三種所得税ヲ納ムル者ノ所得特別税
六　個人ノ臨時利得特別税又ハ物品特別税

第三條　地租及前條諸收入金ノ徴收ニ對シテハ徴收金額ノ百分ノ二ニ相當スル金額ヲ其ノ市、街庄又ハ區長ニ交付ス

昭和十三年六月十六日
臺灣總督府令第四十五號　改正

第一條中「市、街庄又ハ區長」ヲ「市街庄」ニ、「市、街庄内又ハ區内」ヲ「市街庄内」ニ改メ同條第八號ヲ第九號トシ同號ノ前ニ左ノ一號ヲ加フ
八　物品税
第三條中「市、街庄又ハ區長」ヲ「市街庄」ニ改ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（臺第五號）

勅令第三百五十三號（昭和十三年五月十八日）

日滿國稅徵收事務共助法ハ行政訴訟ニ關スル規定ヲ除クノ外之ヲ臺灣ニ施行ス

附則

本令ハ昭和十三年五月二十日ヨリ之ヲ施行ス

拓務省所管樺太廳特別會計

(一) 新ニ補充費途ノ指定要求ニ係ル科目

款	項	目	豫算額	備考
臨時部 6 北支事件特別税徴收費	1 北支事件特別税徴收費	3 徴税交付金	六一一 円	根據法令 別紙第一號參照(第七二丁)

理由

本費ハ國税徴收法ニ基キ徴收金額及納税告知書数ニ對應スルモノナルヲ以テ其ノ所要額ハ豫定シ難ク豫算ニ不足ヲ生スルノ虞アルニ由ル

(二) 昭和十二年度補充費途ニ比シ異動アリタル科目

款	項	目	豫算額	備考
經常部 二九 諸支出金	1 諸支出金	20 滞納處分費	六、六七八 円	根據法令 別紙(朝第五號)參照(第五五丁)

二

理由

日満國税徴収事務共助法ノ施行ニ伴ヒ満洲國ノ國税其ノ他ニ對シ滞納處分ヲ執行スル場合本費ノ支出ヲ要スルニ由ル

（樺第一號）

国税徴収法ヲ樺太ニ施行ノ件（大正八年八月勅令第三百六十七號 大正十一年三月勅令第五十三號）

国税徴収法（明治三十年三月法律第二十一號）

第五條　市町村ハ其ノ市町村内ノ地租及勅令ヲ以テ命シタル国税ヲ徴収シ其ノ税金ヲ国庫ニ送付スルノ責任アルモノトス

政府ハ前項徴収ノ費用トシテ勅令ノ定ムル所ニ依リ市町村ニ交付金ヲ交付ス

国税徴収法施行規則（明治三十五年四月勅令第百三十五號）

第六條ノ二　国税徴収法第五條第二項ニ依ル交付金ハ徴収金額及納税告知書数ニ應シ左ノ區別ニ従ヒ之ヲ市町村ニ交付ス

一 徴收金額ニ對シテハ人口ニ百萬以上ノ市ニ在リテハ千分ノ十、人口ニ百萬未滿百萬以上ノ市ニ在リテハ千分ノ十五、人口百滿未滿五十萬以上ノ市ニ在リテハ千分ノ二十、人口五十萬未滿ニ十萬以上ノ市ニ在リテハ千分ノ二十五、人口ニ十萬未滿ノ市及町村ニ在リテハ千分ノ三十ニ相當スル金額

二 納税告知書ニ對シテハ一通ニ付市ニ在リテハ二銭町村ニ在リテハ六銭ノ割合ヲ以テ計算シタル金額

樺太所得税令 （大正十一年四月勅令第二百二號）

第三十九條 第三種ノ所得ニ屬スル俸給給料歳費年金恩給退隱料賞與若ハ此等ノ性質ヲ有スル給與ノ支拂ヲ為ス者又ハ利益若ハ利息ノ配當若ハ剰餘金ノ分配ヲ為ス法人ハ樺太廳長官ノ定

（樺第一號）

國税徴收法ヲ樺太ニ施行ノ件（大正八年八月勅令第三百六十[illegible]號／大正十一年三月勅令第五十三號）

國税徴收法（明治三十年三月法律第二十一號）

第五條　市町村ハ其ノ市町村内ノ地租及勅令ヲ以テ命シタル國税ヲ徴收シ其ノ税金ヲ國庫ニ送付スルノ責任アルモノトス

政府ハ前項徴收ノ費用トシテ勅令ノ定ムル所ニ依リ市町村ニ交付金ヲ交付ス

國税徴收法施行規則（明治三十五年四月勅令第百三十五號）

第六條ノ二　國税徴收法第五條第二項ニ依ル交付金ハ徴收金額及納税告知書数ニ應シ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ市町村ニ交付ス

ムル所ニ依リ支拂調書ヲ政府ニ提出スヘシ
前項ノ支拂調書ヲ提出シタル者ニ對シテハ樺太廳長官ノ定ムル金額ヲ交付スルコトヲ得

樺太所得稅令施行規則（大正十一年四月廳令第四十一號）

第十九條　樺太所得稅令第三十九條第一項ノ規定ニ依リ支拂調書ヲ提出スル義務アル者ハ左ノ期限ニ從ヒ之ヲ所轄樺太廳支廳長ニ提出スヘシ

一　賞與又ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ニシテ前年三月一日ヨリ十二月末日迄ノ分ニ付テハ毎年一月末日限其ノ年一月一日ヨリ二月末日迄ノ分ニ付テハ毎年三月十五日限

二　法人ノ利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ニ付テハ配當金額又ハ分配金額ノ確定シタル

[redacted]

日ヨリ三十日限但シ無記名式ノ株式ヲ有スル者ニ支拂ヒタル法人ノ利益又ハ利息ノ配當ニ付テハ毎年三月十五日限

三　俸給、給料、歳費、年金、恩給、退隱料又ハ此等ノ性質ヲ有スル給與ニシテ前年一月一日ヨリ引續キ支給ヲ受クル者ノ分ニ付テハ毎年一月末日限其ノ他ノ者ノ分ニ付テハ毎年三月十五日限

第二十一條　第十九條第三號ノ規定ニ依リ其ノ年一月末日迄ニ提出シタル支拂調書ニ記載セラレタル者ニシテ其ノ支給ヲ受ケサルニ至リタルモノ又ハ住所氏名ニ異動ヲ生シタルモノニ付テハ三月十五日迄ニ別記第一號書式ノ異動調書ヲ提出スヘシ

第二十二條　第十九條及前條ノ規定ニ依ル調書ヲ提出シタル者ニ對シテハ其ノ請求ニ因リ調書ニ記載シ

タル一件一人毎ニ一銭ノ割合ヲ以テ計算シタル金額
ヲ交付ス

前項ノ金額ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ調書提出後三
十日以内ニ其ノ計算ノ基礎ヲ記載シタル請求書ヲ所
轄樺太廳支廳長ニ提出スヘシ

拓務省所管南洋廳特別會計

(一)新ニ補充費途ノ指定要求ニ係ル科目

款	項	目	豫算額	備考
經常部 南洋廳	事務費	17 煙草封緘紙調製費	五〇〇〇 円	根據法令 別紙第一號參照(第七六丁)

理由

本費ハ煙草引取人又ハ煙草販賣業者ニ拂下クル煙草封緘紙ノ~~引取~~数量ノ如何ニ依ルモノニシテ其ノ所要額ハ豫定シ難ク豫算ニ不足ヲ生スルノ虞アルニ由ル

款	項	目	豫算額	備考
經常部 南洋廳	事務費	18 所得資料調書交付金	七四	根據法令 別紙第二號參照(第七七丁)

理由

（三）本費ハ所得資料調書提出者ニ交付スル經費ニシテ提出件數ニ伴フモノナルニ依リ其ノ所要額ハ豫定シ難ク豫算ニ不足ヲ生スルノ虞アルニ由ル

（二）昭和十二年度補充費途ニ比シ異動アリタル科目

款	項	目	豫算額	備考
經常部 1南洋廳	9諸支出金	10滯納處分費	一〇〇	内容擴張 根據法令 別紙第三號參照（第七九丁）

理由

日滿國税徴收事務共助法ノ施行ニ伴ヒ滿洲國ノ國税其ノ他ニ對シ滯納處分ヲ執行スル場合本費ノ支出ヲ要スルニ由ル

（南第一號）

南洋群島煙草税令抄（昭和十三年四月十九日勅令第二百六十九號）

第十二條　煙草ノ引取人ハ左ニ掲グル煙草ヲ除クノ外煙草ノ容器又ハ包裹ニ南洋廳長官ノ定ムル煙草封緘紙ヲ貼付シ且當該封緘紙ニ南洋群島ニ於ケル小賣定價ヲ刷記スヘシ

一　第六條ノ規定ニ依リ煙草税ヲ課セザルモノ

二　第七條第一項ノ規定ニ依リ煙草税ヲ免除セラレタルモノ

三　容器又ハ包裹ニ南洋群島ニ於ケル小賣定價ヲ刷記シタルモノニシテ南洋廳長官ノ指定シタルモノ

四　容器又ハ包裹ニ貼付シタル煙草封緘紙ニ南洋群島ニ於ケル小賣定價ヲ刷記シタルモノニ

シテ南洋廳長官ノ指定シタルモノ

南洋群島煙草税令施行規則抄（昭和十三年四月二十九日 南洋廳令第二十二号）

第四十一條　煙草税令第十二條ノ規定ニ依リ煙草封緘[illegible]貼付スヘキ煙草ハ封緘ノ個所ニ煙草封緘紙ヲ[illegible]草封緘紙ヲ破毀スルニ非サレバ煙草ヲ取出[illegible]得サル装置ヲ為スヘシ但シ葉巻煙草ニシテ[illegible]モノニ付テハ各個ニ煙草封緘紙ヲ貼付スヘ[illegible]

第三十三條又ハ第三十八條ノ規定ニ依リ輸出[illegible]ヲ受ケタル煙草ニ煙草封緘紙ヲ貼付シアルトキハ煙草封緘紙ハ之ヲ除去シ又ハ之ニ消印スヘシ

第四十二條　煙草税令第十二條ニ規定スル煙草封緘紙ハ南洋廳長官ノ指定スル定價ヲ以テ之ヲ拂下ク

第四十三條　煙草封緘紙ハ煙草引取人又ハ煙草販賣業者ニ非サレハ之ヲ買受クルコトヲ得ス

（南第二號）

南洋群島所得税令抄　（昭和十二年三月三十日 勅令第二百三十一號）

第三十九條　第三種ノ所得ニ屬スル俸給、給料、歳費、年金、恩給、賞與若ハ此等ノ性質ヲ有スル給與ノ支拂ヲ為ス者又ハ利益若ハ利息ノ配當ヲ為ス法人ハ南洋廳長官ノ定ムル所ニ依リ支拂調書ヲ政府ニ提出ス

前項ノ支拂調書ヲ提出シタル者ニ對シテハ南洋廳長官ノ定ムル金額ヲ交付スルコトヲ得

南洋群島所得税令施行規則抄　（昭和十三年四月一日 南洋廳令第七號）

第三十三條　所得税令第三十九條第一項ノ規定ニ依リ支拂調書ヲ提出スル義務アル者ハ左ノ期限ニ從ヒ之ヲ

所轄支廳長ニ提出スヘシ
一　賞與又ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ニシテ前年三月一日ヨリ十二月三十一日迄ノ分ニ付テハ毎年一月三十一日限、其ノ年一月一日ヨリ二月末日迄ノ分ニ付テハ毎年三月三十一日限
二　法人ノ利益若ハ利息ノ配當ニ付テハ配當金額ノ確定シタル日ヨリ三十日限但シ無記名式ノ株式ヲ有スル者ニ支拂ヒタル法人ノ利益又ハ利息ノ配當ニ付テハ毎年三月三十一日限
三　俸給、給料、歳費、年金、恩給又ハ此等ノ性質ヲ有スル給與ニシテ前年一月一日ヨリ引續キ支給ヲ受クル者ノ分ニ付テハ毎年一月三十一日限、其ノ他ノ者ノ分ニ付テハ毎年三月三十一日限

第三十五條　第三十三條第三號ノ規定ニ依リ其ノ年一月

三十一日迄ニ提出シタル支拂調書ニ記載セラレタル者ニシテ其ノ支給ヲ受ケサルニ至リタルモノ又ハ住所、居所若ハ氏名ニ異動ヲ生シタルモノニ付テハ三月三十一日迄ニ別記第一號書式甲ノ異動調書ヲ提出スベシ

第三十六條　第三十三條及前條ノ規定ニ依ル調書ヲ提出シタル者ニ對シテハ其ノ請求ニ因リ調書ニ記載シタル一件一人毎ニ一錢ノ割合ヲ以テ計算シタル金額ヲ交付ス

前項ノ金額ノ交付ヲ受ケントスル者ハ調書提出後三十日内ニ其ノ計算ノ基礎ヲ記載シタル請求書ヲ所轄支廳長ニ提出スベシ

（南第三號）

勅令第三百五十五號（昭和十三年五月十八日）

南洋群島ニ於ケル日滿國稅徵收事務共助ニ關シテハ日滿國稅徵收事務共助法第四條ノ規定ヲ除クノ外同法ニ依ル

附　則

本令ハ昭和十三年五月二十日ヨリ之ヲ施行ス

厚生省所管簡易生命保險特別會計

新ニ補充費途ノ指定要求ニ係ル科目

款	項	目	豫算額	備考
簡易生命保險費	通信事業特別會計ヘ繰入	通信事業特別會計業務勘定ヘ繰入	三九、九八八、三六六円	根據法令 別紙參照(第八一丁)

理由

従来ハ豫算繰入レヲ為シ来リタル處本年度ヨリハ遞信省ニ於ケル事務取扱量ニ對シ遞信、厚生両省間ノ協定繰入料率ニ依リ繰入スルモノナルヲ以テ事務取扱量豫定以上ニ達シタル場合豫算ニ不足ヲ生スルノ虞アルニ由ル

款	項	目	豫算額	備考
郵便年金費	通信事業特別會計ヘ繰入	通信事業特別會計業務勘定ヘ繰入	四九七、九五四円	根據法令 別紙參照(第八一丁)

理由

前ニ仝シ

昭和十二年法律第八十號

通信事業特別會計ニ於ケル簡易生命保險及郵便年金ノ事務ノ取扱ニ要スル經費ニ關スル法律

遞信省及遞信大臣ノ管理ニ屬スル官署ニ於テ取扱フ簡易生命保險及郵便年金ノ事務ニ要スル經費ハ通信事業特別會計ノ所屬トス

簡易生命保險特別會計及郵便年金特別會計ハ前項ニ規定スル經費ニ充ツル爲毎年度通信事業特別會計ニ繰入金ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル繰入金ハ通信事業特別會計業務勘定ノ歲入トシ第一項ニ規定スル經費ハ同勘定ノ歲出トス

八

大甲第二三三號

起案	昭和十三年十二月一日
閣議決定	昭和十三年十二月二日
裁可	昭和　年　月　日
施行	昭和十三年十二月二日 指令

內閣總理大臣

內閣書記官長

內閣書記官

外務大臣	內務大臣	大藏大臣
陸軍大臣	海軍大臣	司法大臣
文部大臣	農林大臣	商工大臣
遞信大臣	鐵道大臣	拓務大臣
厚生大臣		

別紙大藏大臣請議

昭和十四年度歲入歲出概算